

ひきこもりサポート事業【滋賀県日野町】

地域の実情と課題

【実情】平成31年度に実施した民生委員の調査による町内のひきこもり該当者は、43名（内女性9名）であった。その後も福祉の相談窓口でひきこもりに関する相談件数は増加傾向にあるが、主に民生委員や地域の方からの情報となっている。

【課題】ひきこもっている本人や家族からの相談が少ないため、より気軽に相談してもらうことができる環境を整えるとともに女性（女子）特有の悩みに対し、寄り添った支援ができる体制を構築する必要がある。

事業の特徴

気軽に相談できる場、自宅以外で安心できる場を提供しつつ、働く練習ができるカフェや高齢者世帯への弁当配達、こども食堂での体験を通じて、地域活動への参加や一般就労に向けての段階的な支援ができる体制、女性（女子）特有の悩みに対し、寄り添った支援ができる体制を構築する。

事業の効果

毎月第1日曜日に、対象者を女性に絞った「ひきこもり女子会」を開催することで、女性特有の悩みから一般的な居場所には足を運びにくいという人にも参加いただくことができています。「女子会」への参加をきっかけに、以前のようなアルバイトに行けるようになったという人もいた。また、月に1回の出会いをきっかけに、自宅訪問等、必要に応じて個別の相談支援にもつながることができた。

目的・目標

【目的】ひきこもり状態にある人を含め生きづらさを抱えている方たちに対し、最初の一步として気軽に相談しやすい体制を整備するとともに、安心して過ごせる場所を確保することで、家族以外の人たちと関わり、様々な体験を通じて自らの役割を感じてもらえる機会とする。

継続して居場所に通えるようになった人たちについては、関係機関と連携しながら就労や一人暮らし等、本人の自立に向けた支援にステップアップしていく。

【目標】

- ・居場所（ひきこもり女子会）参加者数【累計】 実績48人（目標20人）
- ・不安を抱える女性に対する相談件数【累計】 実績40人（目標10人）

連携団体

○地域生活支援ネットワーク会議

【構成団体】

町内保育所、幼稚園、こども園、小学校、中学校、高等学校、圏域内特別支援学校、町内医師、社会福祉協議会、少年センター、手をつなぐ育成会、障がい者通所施設、就労支援事業所、相談支援センター、障害児学童、保護者、商工観光課、子ども支援課、生涯学習課、学校教育課、福祉保健課

今後の課題

女子会（女子に限定）への参加をきっかけに、男女混合の一般的な居場所や就労体験等、次のステップにつなげていくことを想定しているが、就労体験の場としてパン屋さん以外も選択できるよう、農業や企業等の体験の受け皿を開拓していく必要がある。

ひきこもりサポート事業

ひきこもり女子会

生きづらさを抱えている人たちの中でも、女性特有の悩みから一般的な居場所には足を運びにくいという人がいるため、女性専用の居場所を確保する。

居場所に行くことが困難な場合には、相談員が家庭を訪問することで信頼関係を築き、個々のペースにあわせた支援を実施する。